

第8回とやま未来創造県民会議における主な意見

(令和元年10月28日開催)

◆全般に関すること

- 「とやま未来創造青年プロジェクトチーム」での議論について、良い提言はぜひ具体的に予算化し実行してほしい
- 県の安心安全、(厚生労働省から指摘をされている)医療機関の再編・統合、行政を含めたIT化やデジタル戦略について、戦略への位置づけを検討してはどうか。
- 次期戦略においては、4つの基本目標がSDGsのターゲットとどうリンクしているのか、マップに整理してはどうか。
- 戦略目標について、県民への周知が必要である。また富山の安全安心について、具体的なデータをもってPR・周知することが必要である。
- 戦略素案において、北陸新幹線の敦賀延伸に向けた観点を取り上げているが、近県との連携の視点も必要ではないか。
- 人口減少時代の都市のあり方、ローコストな地域運営の在り方として、全国でスマートシティ構築に向けた動きが進んでいる。その際ビッグデータの活用が重要だが、専門性が必要であり、人材育成がほとんどなされていないのが実情。
- データサイエンティストの育成、データ収集のインフラ整備、それを活用する企業との連携が不可欠。県内でも取組みを進めている自治体があるが、全域への横展開の観点からも、県の支援が重要。

【基本目標1】結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備

- 少子高齢化、地域の活力の観点からも、若い女性の転出改善が課題。

【基本目標 2】 産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進

- 移住・定住者だけでなく、半定住者を増やす観点も重要ではないか
- 公的機関が実施した東京都内の商業高校の就職希望者へのアンケート結果によると、8割の生徒が地方で就職しても良いと考えているとの結果。一方、学校側によると、地方企業の求人情報が得られないとのことであり、ニーズがあるのにもったいない。情報提供先を大学だけでなく高校にも広げてはどうか。

【基本目標 3】 若者・女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上

- 外国人の活躍について、中小企業の声を聴いたうえで、いかに県がバックアップするかが重要
- 若者の移住には県でも取組んでいるが、移住のためには企業に定着してもらう観点が必要。ある企業とアンマッチであったとしても、他の県内企業に就職できるような環境整備を考えていただきたい。
- 企業でも、60歳を超えた方に働いてもらわないと成り立たない職場が増えている。一方、高齢者の労働災害も増えており、安心して働ける職場環境整備に支援をいただきたい

【基本目標 4】 活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくり

- 災害時も見据えた地域コミュニティ機能の確保が重要。
- 地域コミュニティの強さは、若い世代が地域を離れる要因となりうる一方、富山の魅力的な点でもある。中山間地域だけでなく、都市部の若者にも、負担感のない形でその重要性を啓発いただきたい。
- 地方から東京だけでなく、県内でも中山間部から都市部への人口流出が起きており、中山間地の魅力と豊かさをどのように伝えていくかが課題。
- 「とやま未来創造青年プロジェクトチーム」第1グループの「富山型 HYUGGE」はわかりやすく訴求力のあるメッセージ。車社会の富山では免許返納後のサポート・ケアが足りて

いないと感じており、健康なお年寄りがいきいきとお出かけを楽しめるまちになることも重要。

- 新幹線で来県した観光客が、貸し切りバスで富山と観光地の間を往復することも多い。アクセス道路の整備だけでなく、富山駅周辺や観光地での駐車場の確保も重要。
- 地域医療については、公的病院に医療費削減のしわ寄せがこないよう、県からも支援をいただきたい。
- 台風の影響で観光列車にもキャンセルが発生したが、台湾の団体客で満席の車両もあり、富山空港の大切さを実感。インバウンド誘客の際、県内に長く滞在してもらえよう、県内の公共交通フリーパスも必要ではないか。